

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 19050

建築物名称	柿生小学校増築校舎
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市麻生区片平3丁目2番3ほか10筆の一部
設計者氏名、建築士事務所名	岸見 淳平 日本工営株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,946.98m ²
用途	小学校
構造	鉄筋コンクリート造一部鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	令和4年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	柿生小学校増築校舎	階数	地上3F
建設地	川崎市麻生区片平3丁目2番3ほか10筆の一部	構造	RC造
用途地域	第一種低層住居専用地域、準住居地域、準防火地域	平均居住人員	210 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,120 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 竣工	評価の実施日	2019年12月3日
敷地面積	2,302 m ²	作成者	日本工営(株)
建築面積	1,158 m ²	確認日	2019年12月3日
延床面積	2,947 m ²	確認者	日本工営(株)

外観パース等
パースの公表を希望される場合は
図を貼り付けてください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み 85%</p> <p>③上記+②以外の 85%</p> <p>④上記+ 85%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質</p> <p>Q のスコア = 2.7</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア= 3.0</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア= 3.1</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア= 2.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性</p> <p>LR のスコア = 3.6</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア= 4.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア= 3.4</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア= 3.2</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している 植栽により良好な景観を形成している 中・高木、ヒロティ等の水平投影面積率=20%以上	1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	アメダスデータを用いて、風向調査を行っている	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 昼光利用設備 3.2 3.2.1 昼光制御	庇+カーテン(レール設置)による制御	0.6/0.9	3.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している 中・高木、ヒロティ等の水平投影面積率=20%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.51 BEI _m =0.63	4.1/5.0	4.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	節水対策を実施 解体時の分別が容易 ODP=0.01未満、GWP=50未満の断熱材採用	3.3/4.7	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	アメダスデータを用いて、風向調査を行っている	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.4
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	長寿命配管材を採用	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	節水対策を実施 解体時の分別が容易	2.8/4.0	3.5
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.2
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している 中・高木、ヒロティ等の水平投影面積率=20%以上	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.51 BEI _m =0.63	4.1/5.0	4.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善	アメダスデータを用いて、風向調査を行っている	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.7/1.2	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用	BPI _m =0.51 BEI _m =0.63	4.1/5.0	4.1

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.7
Q1 室内環境										3.0
1 音環境										2.5
1.1 室内騒音レベル										3.0
1.2 遮音										2.8
1 開口部遮音性能										3.0
2 界壁遮音性能										3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										2.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										3.0
1.3 吸音										1.0
2 温熱環境										2.3
2.1 室温制御										3.6
1 室温										4.0
2 外皮性能										3.0
3 ゾーン別制御性										3.0
2.2 湿度制御										1.0
2.3 空調方式										1.0
3 光・視環境										3.6
3.1 昼光利用										4.2
1 昼光率										5.0
2 方位別開口										3.0
3 昼光利用設備										3.0
3.2 グレア対策										4.0
1 昼光制御										4.0
3.3 照度										3.0
3.4 照明制御										3.0
4 空気質環境										4.0
4.1 発生源対策										5.0
1 化学汚染物質										5.0
4.2 換気										2.3
1 換気量										3.0
2 自然換気性能										3.0
3 取り入れ外気への配慮										1.0
4.3 運用管理										4.0
1 CO ₂ の監視										3.0
2 喫煙の制御										5.0

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.1
1 機能性					3.0	0.40	-	3.0
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	-
1	広さ・収納性			3.0	-	3.0	-	-
2	高度情報通信設備対応			3.0	-	3.0	-	-
3	バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	-
1	広さ感・景観			3.0	0.50	3.0	-	-
2	リフレッシュスペース			3.0	-	-	-	-
3	内装計画			3.0	0.50	-	-	-
1.3 維持管理					3.0	0.30	-	-
1	維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性					3.1	0.30	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性					3.4	0.20	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法			5.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性					3.4	0.30	-	3.4
3.1 空間のゆとり					3.4	0.30	-	-
1	階高のゆとり			3.0	0.60	3.0	-	-
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	3.0	-	-
3.2 荷重のゆとり					4.0	0.30	3.0	-
3.3 設備の更新性					3.0	0.40	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出				G W H	1.0	0.30	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮				G	2.0	0.40	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					3.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				G W H	3.0	0.50	-	-

